

# 賃労働によるコミュニティの維持とその限界

## ——インドネシア・ジャワ島のバティック生産労働者の事例から

佐藤純子 (大阪経済法科大学  
アジア太平洋研究センター)

キーワード: コミュニティ、ジャワ、バティック、賃労働、クラフト組合

Gudeman<sup>(1)</sup>のモデルと、ピオリとセープル<sup>(2)</sup>のクラフト的生産体制における産業と職人の組織関係を参照しながら考察を進める。

### はじめに

本論文はインドネシア・ジャワ島中部におけるバティック生産労働従事者の事例に基づき、市場生産活動に参加しつつもその社会性をコントロールするコミュニティの容相を記述するものである。

伝統工芸品として名高いインドネシアの手描きバティックは、市場で取引される商品である。今日、蠟（以下、ロウと記す）を用いてバティックの文様を描く（以下「ロウ置き」）労働者のあいだでは、居住地で熟練技能を獲得したうえで、即戦力として賃労働を開始することが常識となっている。しかしこの労働者はもともとバティック生産を生業としていたわけではなかったと考えられる。また地域が特定の工房と固定的な雇用関係にあるわけでもない。それでは職場外のコミュニティが熟練技能の訓練を引き受け、熟練工を供給する理由と仕組みは如何なるものであろうか。この問いに答えるために、本論文は経済活動を通じて共同領域と市場領域とが互いを形成する点に着目した

### 1. Gudeman による共同領域が行う経済活動の図式と「コミュニティ」の定義

本事例で熟練工を育成し労働規範を規定する集団は、バティック生産に特化した組合ではなく、さまざまな職業と業種の成員から成る地縁コミュニティである。この地縁コミュニティは熟練工を通じ、いかに生産業と関係しているのであろうか。

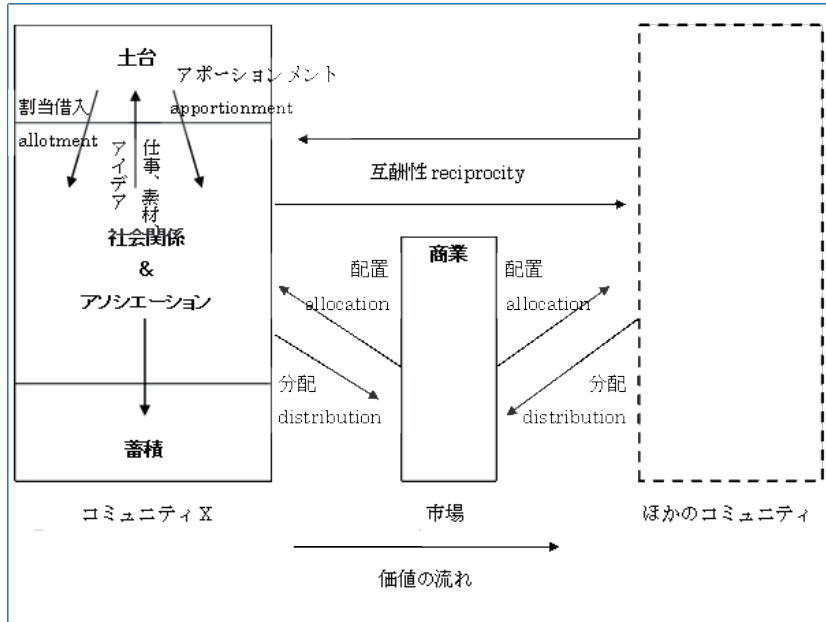
「コミュニティ」と市場は、分離し対立する経済領域ならびに交換領域として捉えられてきたが、アメリカの経済人類学者Stephen Gudemanは、葛藤しつつも互いを形成・維持・再生する関係にあると指摘する<sup>(3)</sup>。以下ではGudemanの論を基に、経済活動を行う共同領域とその構成部分、すなわち「土台・（社会）関係・蓄積」を中心として説明する（図A）<sup>(4)</sup>。

#### a) 土台

土台baseとは共同領域を構成する共有関心interestで、不均質な物質的・非物質的な価値であり、共同的な社会関係を仲介する<sup>(5)</sup>。ラ

- 
- (1) Gudeman, Stephen *The Anthropology of Economy: Community, Market and Culture*. Blackwell, Malden, 2001.  
Gudeman, Stephen *Economy's Tension: The Dialectics of Community and Market*. Berghahn Books, New York, 2008.
- (2) ピオリ, J.M. & セープル, F.C. 『第二の産業分水嶺』 山之内靖・永易浩一・石田あつみ (訳) 筑摩書房、1993。(Piore, M. J. and Sabel, C. F. *The Second Industrial Divide: Possibilities for Prosperity*. Basic Books, New York., 1984.)
- (3) Gudeman 2008 : p.4.
- (4) Gudeman 2001 : p.7.
- (5) Gudeman 2001 : pp.25-28、Gudeman 2008 : p.22、pp.28-31.

図 A. Gudeman によるコミュニティの経済活動の構成



出典：Gudeman 2001：p.7. を基に筆者が作成

テンアメリカの小農世帯の土台の例としては、環境資源、道具、知識、土地、建物、作物の種、サービス、交通ネットワーク、教育システム、儀礼といった雑多なものが挙げられる。有限でアクセスが限定された土台も、無限と考えられアクセスに制限のない土台もある。それぞれの土台に対するコミュニティ成員からの価値付けや重要性も変化する。土台はローカルな方法で人間関係や、人とモノのつながりを作る。

#### b) 社会関係とアソシエーション

土台は社会的に定義された成員のニーズと自足の重要性に基づき、割当や貸出の対象となる。割当てられた土台を**実際に使用する条件に**かなった者が、土台の貸出を受け、共同性を維持・拡大する目的で社会関係や目的限定的なアソシエーションを通じて使用し、土台のメンテナンスを行う<sup>(6)</sup>。

土台は社会関係をつうじて取引tradeされる。市場領域においては匿名的で非個人的な関係を通じた競争的取引となる。市場における互酬性

は効率という価値に導かれ、交換物に対する計量をもって取引が行われる<sup>(7)</sup>。市場領域で持たれる関係とは取引結果の蓄積のための手段である。これに対し共同領域における土台の取引を媒介する社会関係とは、親族集団や世帯のように、継続的な協力関係にある紐帯である。共同領域における社会関係は共同性の具現であり、それ自体を目的としている。共同的な社会関係は土台を使用する際に課税や再分配、婚資、共同的な自足的活動といった形態を取る。

#### c) 蓄積

市場では取引関係を通じた結果は蓄積されるが、共同性を価値とした共同領域においては、蓄積は顕著ではなく、社会関係を通じて土台が使用された結果、共有土台の再生や新たな共有土台の創出となる。

Gudemanが描く共同領域は、土台の節約と消費削減によって作り出した残余を市場領域と取引し、必要なものを買うための収入を得る。取引の結果得られたものは、コミュニティの土

(6) Gudeman 2008：p.37. 傍点筆者

(7) *ibid*：p.22.

台へと還元される。これに対し、市場領域では土台の使用は個人の富の蓄積へと向かう。

ここまでをまとめると、共同領域での共有土台は社会関係を通じて使用され、取引によって市場や他のコミュニティへと移動する。取引や互酬性によって得られた結果は、共有土台となる。Gudemanの言う共同領域での「経済」とはこの循環活動を指すといえよう。

Gudemanは「コミュニティ」という概念を広く定義し、社会関係そのものが目的であり手段であるという特徴を挙げるが、本論文は事例の労働者の共同性に焦点を絞り、社会学者マッキーヴァーの理念を採用する。すなわちコミュニティとは、地域での共同生活における共同関心を志向し、統一を創り出す心的状態によって特徴づけられる<sup>(8)</sup>。コミュニティには通常、旗や王冠など、そのコミュニティのアイデンティティを表象する土台があり、コミュニティの存続や正当性を確認する機能をもつ<sup>(9)</sup>。成員は「コミュニティ感情 community sentiment」という心的状態にある。個々の意志の対象それ自体は「関心」と同義ではなく、関心とは活動を規定するような対象である。成員が自らの社会関係のすべてをその集団内に見出し、生活することが可能な集団<sup>(10)</sup>が、コミュニティである<sup>(11)</sup>。

コミュニティの客観的要因には、共同生活において多数の者に共通する福祉といった共同関心がある<sup>(12)</sup>。さらにマッキーヴァーは、アソシエーションをコミュニティと区別している。アソシエーションとは、協同組合や教会など、より限定された類似関心によって識別される関係の形態である。類似関心は潜在的な共同関心

であるが、コミュニティはアソシエーションに先立つ。

本論文ではロウ置き労働者たちが居住地の近隣において形成する、一般共同生活の対面的な関係ならびにそのような集団範疇を「近隣コミュニティ」と定義する。また目的限定的な労働者と雇用主である工房との関係を「職業アソシエーション」、手描きパティック産業内での工房や関連産業の関係を「専門職アソシエーション」と定義する。労働者が産業内にコミュニティを形成せず、職業アソシエーションとして切り離している点が、この事例の大きな特徴であり、以下ではこの近隣コミュニティと職業アソシエーション、職業アソシエーションと専門職アソシエーションの切り結びを具体的に考察することで、コミュニティが熟練技能の育成を行う方法と理由を明らかにする。

## 2. 調査対象者がはたらく工房と生産活動の概要

### 2-1 インドネシア・パティックとその生産の歴史的背景

本題に入る前に、本事例のロウ置き労働者たちが生産工程の一部を担う、手描きパティック<sup>(13)</sup>という布と、その生産の背景について説明しよう。手描きパティックとは、ロウによる防染技法をほどこした布である。併用する技法の数や、色の数と染色回数によって生産に要する時間や商品の価格が大きく異なるが、プリントパティックやスタンプ技法のパティックと比較すると、ロウを用いて手描きで文様をほどこす（以下「ロウ置き」）時間が長いと、高価になる。現在はジャワの大都市中上流層をおもな消費者とし、土産物店やデザイナーパティック、パティック専門店、

(8) マッキーヴァー、R. M. 『コミュニティ—社会学的研究：社会生活の性質と基本法則に関する一試論』中久郎・松本通晴（監訳）ミネルヴァ書房、2009 [1924]、p.128。

(9) Gudeman 2008 : p.35.

(10) しかしこれはコミュニティが閉鎖的で自己充足的であることを意味しない。コミュニティがもつ、共同生活を志向した社会関係の構造が備えられていれば、条件としてはコミュニティに合致するという意味である。

Maclver R. M. and Page, C. H. *Society: An Introductory Analysis*. Macmillan & Co. Ltd., London, 1950.,p.9.

(11) *ibid* : pp.8-9.

(12) マッキーヴァー 2009 [1924] : pp.128-137.

(13) パティックという語は、ろうけつ染めやその類似的な染織品を指すとして、ジャワ語やインドネシア語のみならず広く一般に使用されている。ロウを使用する防染技法の場合、スタンプもしくはチャンティンというペンのような道具を用いて熱したロウで布の上に文様を置き、染色し、ロウを落とすと、文様の部分が染まらずに残るものである。

展示会等を通じて販売されている。鑑賞用の絵画バティックと異なり、主に腰布としての着用を想定して作られることが多いが、世界各地の消費者・愛好者・収集家から芸術的な価値を評価されるものも存在する<sup>(14)</sup>。

ジャワバティックの生産の起源は未だ不明であるが、17世紀のヨーロッパの旅行記はジャワ王宮<sup>(15)</sup>が生産を行っていたことを記録しており、また17～18世紀には国際貿易を背景として独立性を強めた北部海岸地方の諸都市で、企業家精神に富んだ華人工房が独自のモチーフを取り入れたバティックを生産していた<sup>(16)</sup>。

その後バティックはオランダの資本による貨幣経済の浸透とプランテーション経済の下で衣料としての需要を増し、19世紀にはイギリスやオランダ、スイスから輸入されたイミテーション・バティックに、ジャワバティックの色褪せにくさで対抗した<sup>(17)</sup>。またスタンプ技法も登場し、生産量の増大による、より低価格のバティックが現れた。

インドネシア共和国の独立後、スカルノ大統領はバティックをインドネシア国家の象徴と位置付け、各地のバティックの特色を越えたバティックの生産を後押しし、バティック協同組合に対する補助金制度を適用するとともに、バティックシャツの着用を推奨した。次いでスハルト政権下ではバティック保護政策は廃止され、近代的な工業の発展を志向した制度の整備が進んだ。1970年代にはロウを用いずにバティック

文様をプリントしたプリントバティックが登場し、より大量に安価な製品が供給されるようになった。多くの手描きバティック生産者は周辺化されて行った。しかし市場では次第にスタンプバティックが少量多品目生産の安価なプリントバティックに圧倒されるようになり、腰巻やシャツにとどまらない服飾・装飾品への応用や、素材や需要の多様化に対応する少量多品目生産の手描きバティックとプリントバティックの二極化傾向が現れた<sup>(18)</sup>。2009年にはインドネシアがバティックをユネスコの無形文化遺産に登録し、認定された<sup>(19)</sup>。このようにインドネシア・バティックは伝統文化の精華として名を馳せている。

## 2-2 手描きバティック産業とロウ置き労働の組織

本論文が取り上げるジョグジャカルタ市とその近辺では、2007年時点<sup>(20)</sup>において、少なくとも31軒の手描きバティック工房が生産を行っており、最も作業時間を要するロウ置きへの従事者（以下「ロウ置き労働者」）は638名以上にのぼった。その中の7軒の工房での聞き取り調査によると、現経営者がすでに4世代目にあたる工房と、1970年代以降に設立された工房とに大別でき、それぞれ製品のタイプや労働条件、生産管理体制、販路などに際立った特徴が見られる。そのため、前者を「伝統的工房」、後者を「新設工房」と表記する（表1）。

まずジャワ中部における手描きバティック工

(14) 戸津正勝によると、他の伝統工芸品と同様にジャワバティックの文様にはインド文化がジャワ土着の伝統文化と混合したヒンドゥー・ジャワ文化の影響が見られるという。

戸津正勝「バティック・インドネシアの成立過程—多民族国家における国民文化形成の一類型—」朝日新聞社（編）『インドネシア更紗のすべて—伝統と融合の芸術』朝日新聞社、2007、p.167。

(15) 関本はイスラム・マタラム王国が1755年に分裂する以前から王宮が生産を行い、指定文様の王族外による着用禁止令を出していると記す。

関本照夫「市場とコミュニティ—ジャワ・バティックとその社会的土台」『アジア学の将来像』東京大学東洋文化研究所（編）、2003、pp.457-484。

(16) 戸津 2007：p.170。

(17) 戸津 2007：p.270、関本照夫「周縁化される伝統—バティックから見るジャワの近代」『民族学研究』65/3、2000、pp.268-284。

(18) 関本 2000：p.275。

(19) UNESCO “Indonesian Batik” <http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?lg=en&pg=00011&RL=00170#identification> (2014年9月18日アクセス)

(20) 本調査は2005年7月から2007年3月、追跡調査は2007年7-9月に実施された。

表 1. ロウ置き労働者を雇用するジョグジャカルタ市近辺の 7 軒の工場の概要

	伝統的工房	新設工房
工房名	BI、CM	AP、NI、NS、SG、AY
経営者の世代数（代目）	4世代以上	1世代目 2世代目へ移行中の場合も
地理的な位置	ジョグジャカルタ市南端	ジョグジャカルタ市の北
バントゥル県のロウ置き労働者の従業形態	通い（工房作業場での従事） 在宅労働者 住み込み	未婚者の住み込み 在宅労働者兼仲介者（イモギリ、ウォノサリ、バヤット、ゴデアン）
ロウ置き作業の進捗の管理方法	特になし	タイムカード使用、欠勤届、監督者による承認
労働条件	出来高制、交通費補助、昼食、住み込み可能	出来高制、交通費支給、昼食、基本給、健康保険加入 稀に日給制も
職場でのその他の活動	希望者による金融講	宗教講話、スポーツ大会、体操、ミーティング
パティックのタイプ	青・茶・白の伝統的ジョグジャカルタ文様	マルチカラーのジャワ北岸文様
販売する製品	腰布、正装セット、シャツ用素材、スカート用素材	腰布、正装セット、シャツ、スカート、ネクタイ、インテリア小物
販路	ショールーム、伝統的市場、専門販売店（市内）、受注販売（国内）	ショールーム、専門販売店（バリ、日本）、催事場（海外）、受注販売（国内、マレーシア、日本）
家族による関連企業	結婚式関連ビジネス、衣類縫製工場	衣類縫製工場、オートクチュールファッション

出典：筆者の調査による

房の経営の特徴として、経営者が生産者でもあることや、家族全員が一業に特化した家業ではないことをことわっておこう。ジャワ一般に見られるように、親族規範は非常に緩やかで、家族の企業と協力することはあるが、工房経営は商業的な厳格さをもって行われる<sup>(21)</sup>。伝統的工房2軒は現在では形骸化したパティック組合の

会員である。新設工房SG以外の6軒はジョグジャカルタを拠点とするパティック愛好者の会スカルジャガドの会員である。スカルジャガド<sup>(22)</sup>は、手描きパティックという財を中心にその歴史や意味、生産技術、知識など多岐の分野に渡る類似関心を共有しており、染色ワークショップや蒐集家によるパティックの展示、生産者訪

(21) この傾向は、東ジャワの村落部を調査した Alexander による小商品 petty commodity 生産者の経営形態や、ギアツが「企業なき企業家」と形容するモジョクトの町（仮名）の商人の中でも、とくに手工業的側面の強い商品製造業者と共通する。Alexander, Jennifer Trade, *Traders and Trading in Rural Java*. ASAA Southeast Asia Publications Series, Oxford University Press, 1987, p.107.

Geertz, Clifford *Peddlers and Princes: Social Change and Economic Modernization in Two Indonesian Towns*. University of Chicago Press, Chicago, 1963, p.59.

(22) ここで筆者がアソシエーションとよぶ集団は、ピオリとセーブルがコミュニティと表記するものである（ピオリ&セーブル 1993 : p.343）。本論文ではロウ置き労働者たちの一般共同生活コミュニティに照準を合わせるために、社会学者マッキーヴァーによるコミュニティという語の定義を採用している。

問ツアー、講演会など専門性に関する活動を実施し、生産関係者間にゆるやかなつながりを提供している専門職アソシエーションであるといえる。

さらに顧客が生産技術の研鑽や実験に協力する例も、新設工房AYや新設工房SGで見られる。クラフト生産では市場が一定の顧客を意味することが多く、競争が起こりにくいと同時に、顧客の注文に対するコミットメントがある<sup>(23)</sup>。匿名的な市場は図Aの「ほかのコミュニティ」に相当する専門職アソシエーションの中の、個々の専門化である経営生産者との継続的な協力関係に発展する場ともなるのである。

伝統的工房と新設工房はそれぞれ、文様や色の異なるタイプのバティックを生産する傾向が強い。伝統的工房は通常は白と青と茶の三色を用いたジョグジャカルタの伝統的な幾何学文様のバティックを生産する。結婚式において参加者が腰布として着用するのは、このタイプのバ

ティックである。これに対し新設工房は、ジャワ北岸タイプのカラフルで華やかな鳥や花などの文様を用いたバティックも生産しており、ファッションショーで使用されている。新設工房NSの経営者によると、ジョグジャカルタヤソロの伝統的なバティックはインテリアや雑貨等の製品に応用しづらいからである(2006年9月18日インタビュー)。新設工房は、顧客の要求に応じてデザインや染色技術、素材、ロウ置きなどの質などをコントロールする技術力をもつ。

表2は工房が熟練ロウ置き労働者を調達する方法を示しているが、ロウ置き労働者は請負関係に入る前にすでに熟練技能を身につけ即戦力として契約を結ぶことが、経営者からも労働者からも慣例として認識されており、いずれの工房も何らかの形でそのような者を雇用している<sup>(24)</sup>。

伝統的工房でも新設工房でも、簡単な段階や分かりきった伝統文様であれば、指示や監督の必要がないため在宅労働でも問題がないが、特

表 2. 職場コントロール<sup>(25)</sup>に関するバティック工房とクラフト生産システムの比較

	伝統的工房	新設工房	ピオリとセーブルによるクラフト組合 <sup>(26)</sup>
技能訓練	居住地近隣で関心を持つ者が親しい者を手伝いながら技能を獲得(従来の訓練方法)	未経験者を対象に工房での新規訓練を行い、工房の作業場で従事する者を育成する場合もある 在宅労働者は従来の訓練方法による	熟練工の組合が徒弟制により技能訓練
求人方法	既存の労働者の人脈が熟練者を紹介	地方紙での新規訓練コース参加者募集広告 職業訓練校での求人広告 他の工房を通じて 既存の労働者が紹介	組合が成員を順番に斡旋
請負開始時の熟練度の判定	既存の労働者が判断して紹介、さらに工房経営者が判定	工房経営者と生産監督が判定 在宅労働の熟練度判定は仲介者に一任	組合が判定
作業の割り当て	工房経営生産者が工程の段階ごとに割り当てる	工房経営生産者が工程の段階ごとに割り当てる 一人が一枚という割り当てでも試行中	使用者が組合に要請

(23) ピオリ&セーブル 1993 : p.338.

(24) 新設工房AYは例外的に職業訓練校や工房での新規訓練によって熟練技能者を育成しているが、そのAYにしても在宅労働者兼仲介者を通じて、また遠隔地の他の工房を通じて、近隣コミュニティで訓練を受けた労働力に頼っている。

殊注文においては経営生産者と各工程の労働者とが緊密に協力して作業を進める必要がある。つまり監督・指示の必要な作業を工房で行う労働者を確保することで、クラフト生産システムのように<sup>(27)</sup>、手描きパティックの新設工房も熟練工と設計者との協力的な生産体制を職場内に作り、技術発展へとつなげようとしているのである。新設工房は宗教講話やミーティング、スポーツ大会等によって、全従業員の職場での一体性を高めようと試みている。また工房の作業場で従事する者に対しては勤務時間管理を行い、社会保険に加入し、基本給や交通費を支払う。しかしロウ置き労働者は専門職アソシエーションのメンバーのように商品の市場での状況には関心を持たず、協力は限定的である。

筆者が観察した伝統的工房BIや新設工房AYでは、難しいデザインや納期の迫った作業のために作業場で残業を打診されたのは既婚労働者で、一様に口を揃えて残業を拒否した。工房AYでは監督者や事務員が繰り返し頼んでも、ボーナスの増額を提示されても、一回たりとも応じない強固な姿勢であった。

さらに労働者は、個々の「技術度」に差異が存在することを強く否定するため、技術向上を目指した働きかけも非常に難しい。伝統的工房と新設工房<sup>(28)</sup>はいずれも出来高制を基本としており、工房の作業場ごとに経営がロウ置きの種類に応じた賃金体系を設定し、在宅労働にも

適用している。労働者はこの賃金体系が作業場ごとに一律に適用されるよう強く主張する。賃金の差は作業内容の違いと作業量の差であり、みんなの技術度は等しいとの見解が貫かれ、技術度による賃金の差異化は労働者からの強い反発を招く。このように経営者と労働者とのあいだには越えられない壁があるのである。

### 3. 事例:ロウ置き労働者の一般共同生活コミュニティ

ロウ置き労働者が専門職アソシエーションとの間に作る壁は、近隣コミュニティの包括的な生活支援の役割から理解できる。以下ではインタビューを行った8軒の工房<sup>(29)</sup>を含め多くのジョグジャカルタの工房でロウ置き作業を行う者が居住するバントゥル県パンダッ郡トリハルジョ村の近隣コミュニティについて考察を進めるが<sup>(30)</sup>、調査票による回答はより広くジョグジャカルタ市に隣接する地域<sup>(31)</sup>の出身者で、伝統的工房BIと新設工房APと請負関係にある労働者のうち、合計29名の世帯rumah tangga (I<sup>(32)</sup>) についてのデータを示している。

バントゥル県パンダッ郡トリハルジョ村は、ジョグジャカルタ市の南に位置し、オートバイで片道40分ほどの距離である。トリハルジョ村から工房BIへはバス一本で行き来でき、比較的交通の便が良い。工房BIのロウ置き労働者の勤務形態には、自宅から作業場に通う者と、在宅

(25) 職場コントロールとは、自分の仕事場に対する労働者の自律性すなわち道具や機械の使用や、賃金の決定、採用と昇進のパターン、作業の質の管理といった事項についてのコントロールを意味する(ピオリ&セーブル 1993 : p.151)。これらは生産活動のすべての側面に拘っている。

(26) ピオリ&セーブル 1993 : pp.157-163。

(27) *ibid* : pp.157-163。

(28) 新設工房の中には細かく丁寧な作業を求めるために、日給制を一部に採用する工房もある。しかしBIのロウ置き労働者Sは、ロウ置きの速度は作業者が調整できない性質のものなので、一日の作業量は結局変わらず、日給が特に有利だとは考えられないという。

(29) 行政区としては中部ジャワ州スレマン県に所在する新設工房AYやAP、NS、SGへ行く場合は、さらにバスを乗り継いで20分ほどジョグジャカルタ市を縦断する必要がある。筆者はパンダッ郡からスレマン県まで通う者には出会ったことがなく、これらの工房と請負関係をもつバントゥル県出身者は未婚で住み込みもしくは村落居住地で在宅労働をしている。

(30) ジョグジャカルタ市近辺の手描きパティック工房と請負関係にあるロウ置き労働者の居住地・出身地には偏りがあるため、明瞭に地域を特定できる。筆者が聞き取りを行った7軒の工房では、ロウ置き労働者の出身地はジョグジャカルタ特別州バントゥル県(パンダッ郡、イモギリ郡)、グヌンキドゥル県(ンガウエン郡、グダンサリ郡)、中部ジャワ州のクラテン県(バヤット郡)、プカロガン県(ウォノクルト郡、シワラン郡)であった。

(31) ジョグジャカルタ市近辺の地域として、注30のプカロガン県以外を提示する。

(32) 以下、インドネシア語は(I)、ジャワ語は(J)と表記する。

で作業を請負う者とが混在する。一方工房APはジョグジャカルタ市の北端に位置しており、トリハルジョ村ならびにジョグジャカルタ市の隣接地域の出身者の勤務形態は、少数の在宅労働者兼仲介者以外は、住み込みである。

### 3-1 農業と自給

面積50,685ヘクタール、17郡合計75村に渡り人口約80万人を抱えるバントゥル県の産業別地域GDP（2004年速報値）を見ると、第一位は農業で9673億8千5百万ルピア、ついで製造業の8537億4千万ルピアである<sup>(33)</sup>。県内の土地利用全面積は水田地と非水田地に大別されており、

水田地に対し非水田地が2倍ほどである<sup>(34)</sup>。非水田地のうち最も多いのが家屋を含む屋敷地菜園pekaringan (*I*) 20,290haで、次いで畑tegal/ladang/kebunが6,716haである<sup>(35)</sup>。

調査票回答者たちの25世帯中、22世帯が何らかの形で農業労働に従事する成員をもち、半数強が農地を保有している<sup>(36)</sup>。屋敷地菜園<sup>(37)</sup>や農地からの収穫や現物支払いによる食物の自給度は明らかではないが、対象世帯30世帯のうち24世帯に少なくとも農作物の現物収入があり、現金以外の収入と併せて生計が営まれていることがうかがえる。

### 3-2 多様な職業からなる世帯

表 3. 工房 BI あるいは工房 AP から口ウ置きを請負うジョグジャカルタ市近辺出身者の世帯の農業収入の状況

	世帯数 (うちパン ダッ郡以 外の世帯)	農地非保 有	農業従事 者あり	作物の現物 収入あり	作物による 現金収入 あり
工房BI	5 (0)	2	5	5	4
工房BI在宅	9 (0)	5	7	8	5
工房AP	10 (5)	5	9	10	7 (無回答3)
工房AP在宅	1 (0)	1	1	1	0
	25 (5)	13	22	24	16

(33) BPS Bantul *Bantul Dalam Angka 2004 (Bantul in Figures 2004)* Badan Pusat Statistik, Kabupaten Bantul, 2005, p3; p326.

(34) *ibid*: 163.

(35) *ibid*: 164.

(36) Maurer はバントゥル県の4村における1972年から1987年にかけての経済活動の多様化を調査した。肥沃な地域においては0.25ha以上の水田を相続した者が、相続により零細規模化した水田を買い入れて0.5haほどに拡大し、政府主導の農業の近代化の恩恵を受け、専業化したり家族や親族に貸す例が見られたという。他方、乾燥地においては相続された農地は売却されず、そのまま保有され零細規模ながら使用しつつ他の職業に従事する傾向が見られたという。本事例のジャラン集落では肥沃な低地は限られており、2世帯のみが農業経営をしていた。

Maurer, J-L. 'Beyond the Sawah: Economic Diversification in Four Bantul Villages, 1972-1987' Alexander, P., Boomgaard, P., and White B. (eds.) *The Shadows of Agriculture: non-farm Activities in the Javanese Economy: Past and Present*. Royal Tropical Institute, Amsterdam, 1991, pp.92-112.

(37) Stoler は屋敷地菜園からの食糧が世帯員のカロリー摂取量の40パーセント以上を占めていたと報告するため、その重要性を認識する必要がある。

Stoler, Ann 'Garden Use and Household Economy in Rural Java' in *Bulletin of Indonesian Economic Studies*, 14:2, 1978, pp. 85-101.



本調査の対象者であるロウ置き労働者は、雇用地位別に見ると、県内で最も多い「被雇用者」<sup>(38)</sup>の地位にある。その世帯員の活動は、幅広い業種に広がっており、同一世帯内で二名以上の「主たる職業」が一致する例は稀であった。70年代に関本照夫が中部ジャワで調査した時と同様に<sup>(39)</sup>、本論文の調査対象者たちも複数の現金創出活動を比較的短いサイクル内で行っており、世帯は一業に特化していない傾向があると言えるだろう。いずれの世帯でも男性、女性ともに賃労働従事者か商いをする者がロウ置き労働者のほかにも必ずいる。またロウ置き労働者たちの中には、通年ではなく一時的に野菜を売る屋台warungや料理の屋台を商う者もある。さらに女性、とくに既婚で世帯を持つ女性の場合、家事や育児を自分の役割と考えて行う者がほとんどである。

### 3-3 親密な共同性をもつ近隣コミュニティとその範囲

本論文が調査対象としたロウ置き労働者の世帯は、夫婦一組とその子どもで構成される核家族になっている。結婚し世帯を持つ者は、ジャワで広く見られるように、かまどを親とは別にし、世帯代表としてふるまう。調査対象者たちも、夫または妻の親の敷地内に自らの家を建てて住んでいた。しかし世帯や核家族、屋敷地は閉じた共同領域とはなっていない。

ロウ置き労働者の世帯は一業に特化した家内生産体制にはなく、調理に不可欠な薪や建築用資材を屋敷地内や近隣の者と貸し借りしたり、乾季の水不足のあいだは親族関係にない近隣の者の井戸を使わせてもらうなど、世帯の土台とそれをういた労働が循環する範囲は、核家族よりもさらに広い。世帯は共有土台をもつ一つの共同領域ではあるが、それを中心としつつ

も、外部との境界はグラデーションになっている。近隣での労働交換や、儀礼の手伝いレワンrewang (J) においては、世帯代表が互いの家に普段から出入りする関係のなかで実質的な役割を果たすものから、形式的に参加する社会制度までさまざまである。こうした「隣人」関係の濃淡において、住居が接する10軒ほどの世帯が、互いの家に普段から出入りし、実質的なレワンで行動を共にし、育児中の者の用事を頼まれたり、食品や建築用資材、労働力の貸し借り、情報交換を行う近隣コミュニティを形成している。ロウ置きの技能訓練や熟練者の紹介もこの人脈を通じて行われ、在宅労働者が請負ったロウ置きのための布とロウを、都合のつく者が代表して工房へと行き来し運搬することもある。近隣コミュニティは構造としてはそれ自体の中で生活のすべてを行うことが可能な単位である。では、このコミュニティが市場商品生産のための熟練技能者を育成する理由とは如何なるものであろうか。

## 4. 近隣コミュニティとその限界

### 4-1 近隣コミュニティがもつ職人組合機能

トリハルジョ村ジャラアン集落で工房BIの在宅労働者Iを訪問すると、ドアを開け放ってテレビを見ながらIがロウ置きを行っている。向かいに住むGも自分の子どもとともにそこに加わり、しゃべりながら作業をしていると、昼すぎにGの長女が小学校から帰ってきて加わり、ロウを遣わずにチャンティンだけを握って文様を描く真似をする。こうした光景はスレマン県バヤット郡でも見られた。家に入出入りする親しい関係にある者が関心をもち、次第に手伝うようになり、技能を獲得してゆくのである。

(38) バントゥル県内の就業者を雇用地位別に見ると、被雇用者 buruh / karyawan / pegawai である男性は、就業者全体の 26.72 パーセントを占め、被雇用者の地位を持つ女性は就業者全体の 16.97 パーセントとなっている。女性の就業を産業職種別に見ると、「販売業」が就業女性全体の 32.95 パーセントで最も多く、次いで「製造」が 26.97 パーセント、「農業」が 19.6 パーセントとなっている。

BPS Bantul Indikator Kesejahteraan Rakyat Kabupaten Bantul 2005 (Welfare Statistics of Bantul Regency 2005), BPS, Kabupaten Bantul, 2007, P31, P34.

(39) 関本照夫「二者関係と経済取引—中部ジャワ村落経済生活の研究」『国立民族学博物館研究報告』5(2)、1980、pp.376-408。

ロウ置き労働者に、どこでロウ置きを学んだbelajar (I) かと尋ねると、隣人tetangga (I) から教わったdiajarin (I、口語表現) との答えが最も多く、家族から教わったという者が数名見られた。調査対象となったロウ置き労働者のほぼ全員が中学校卒業以下の学歴であるせいか、質問の意図を取り違えて、ロウ置きは学校に行かなくてもできるようにするのだ、と答える者が複数いた。教育制度の文脈に置かれる「学ぶ・勉強する」ことと、日常生活の場におけるロウ置き技能の獲得を、同一概念で表現することに違和感を持つ様子がうかがえる。ロウ置き労働者は、「調理ができればロウ置きもできる」と述べ、この熟練技能を調理と並置させる。いずれも一般生活の日常的環境において獲得される点が共通する。

労働者は職業に限定されない居住環境において、近所の者の在宅労働の手伝いという形で幼少時から技能を身につけてゆく。一定程度の技能レベルに達した者が、工房から打診のあったときに既存の労働者によって紹介され、工房経営者が採用を判断する(表2)。つまり技能訓練と斡旋の役割<sup>(40)</sup>を、専門化した熟練工の組合ではなく居住の近接性に基づく近隣コミュニティのなかの熟練工たちが担っている。しかし経営生産者と労働者あるいはその近隣コミュニティとは固定的な関係にあるわけではなく、ロウ置き労働者は過去に別の工房の請負をした履歴をもち、工房の労働者の居住地や出身地は複数に及ぶ。つまり技能は手描きパティック産業内で広く通用するものである<sup>(41)</sup>。さらに作業場ごとの賃金レートの一貫遵守などの規範や労働慣行は職場内で共有されるだけでなく、7軒の工房を含め、筆者が接したすべてのロウ置き労働者に、産業内の常識として共有されていた。

#### 4-2 近隣コミュニティと専門生産者とのほざまで

ここまでロウ置き労働者の近隣コミュニティが、居住地での生活における女性の役割への

支援や物資、労働、情報の交換を行う対面的で具体的な集団であると同時に、ロウ置きに拘る労働規範が職場や地域を越えて共有されていることを述べた。その背景には、ジャワの村落居住者は「隣人」tetangga (I) 関係への参加者であるとの前提がある。以下ではこの類型における役割観と実際の労働の間にある齟齬を見てみよう。

#### 4-2-1 最低限の生活を保証する平等な成員の集まりとしての近隣コミュニティ

労働者は同一の近隣コミュニティから作業場に来ているわけではないが、皆が同様にそれぞれの近隣コミュニティでの学習過程を経て技術や規範を身につけているという暗黙の前提がある。工房経営生産者とロウ置き労働者との契約は明文化されていないが、工房が作業の種類ごとに決めた賃金レートがある。労働者は普段から、労働者を分け隔てしない経営者は良い経営者だ、といった話をするが、分け隔てとは一律の賃金レートに則らないことを意味する。筆者がイモギリ郡を訪問した際、パティックの質の向上を目指し、技術度によって同一種類の作業の賃金を差別化しようと試みる使用者がいたが、労働者は集団で反発していた。

熟練度が低いまま経済的な理由から請負関係に入り、規範を破ったと見なされたケースもある。トリハルジョ村で工房BIの在宅労働をするIが、再婚した両親から疎まれていた近所の貧しい高校生Aを、住み込み労働者として紹介したところ、採用された。工房BIの経営者家族もIもAもイスラム近代改革派ムハマディヤであり、貧しい者への喜捨や学校教育の重要性を日ごろから意識している。しかしAの技能は円や点を描く手伝い程度であることが筆者の目にも明らかであった。他の労働者も事情を理解してはいたがAとIに反発し、Aは工房での寝泊りを断念せざるを得ない状況に陥った。Aは在宅労働に切り替えたものの、高校を卒業して遠方の

(40) ビオリ&セーブル 1993 : pp.157-163。

(41) 日本では工房に弟子入りし共同生活を行うなかで技能訓練が行われるが(e.g. 山田 2013、p.49)、筆者が調査したジョグジャカルタ近辺のロウ置き労働者たちは、異なる工房からの請負の履歴を持っていた。

山田幸三『伝統産地の経営学—陶磁器産地の協働の仕組みと企業家活動』有斐閣、2013。

工場へ就職するまで、AもIも工房へ近づくことはなかった。

さらに工房BIの作業場に通う50代のSは、自分が最も難易度の高い輪郭線の作業を請負う技術力を持つことと、他の工房でより高い賃金を得たいという理由から、筆者に工房APの労働者を紹介してくれと頼んだ。しかし工房APの作業場では未婚の住み込み労働者ばかりであり、自宅から通うには遠いことと、在宅労働は避けたかったため、工房BIから工房APへは移動しなかった。Sは母親と同居しているが、母親は独居の貧困世帯として政府の燃料費補助を受けている。Sの夫は遠方に出稼ぎに行っており、年に一度顔を見せるが、二人の結婚には批判がつきまとう。同居する娘には障がいがあり、近隣での活動に参加するのは難しい。本来ならSが世帯代表として年老いた母親とは別に振舞う必要があるが、その役割は母親のみが行っている。Sは、自分のロウ置き技術によって高い賃金を得たいが機会がない、都市ではなく村落でなら貨幣を介さずに食べていける、しかし近隣の者たちの中に混じる機会がない、と愚痴をもらす。

同一の工房に配置された労働者の技術は、近隣コミュニティによって育成され、最低限以上であり等価であるとして、コミュニティ外にいる工房経営者との関係へと結び付けられるわけだが、この平等性は最低限の賃労働への入り口を提供するものの、最低限以上の達成に対する対価は提供されず、保証もない。

#### 4-2-2 一般生活技能の獲得を提供するコミュニティ

経営者がロウ置き作業の振り分けをする際、難易度が高く賃金も割高な輪郭線の作業や指示の必要な作業は、経験年数の長い者に任される。この差異は「経験のちがひ」として説明されており、個々の能力と技術度に対する差別化ではないと理解されている。

先述のように労働者は、ロウ置き技能を調理になぞらえ、学校教育でない日常的環境において習得された一般生活技能として理解している<sup>(42)</sup>。材料と道具を扱う技術や、文様の名前や規則といったロウ置きの知識は、近隣コミュニティの共有土台なのである。その経緯を調べると、この地域でパティックが自給生産品であったと断言するには資料が乏しい<sup>(43)</sup>。パンダッ郡トリハルジョ村ジャラアン集落の年寄りに尋ねると、1920年代<sup>(44)</sup>にロウ置きを行う者はこの地域にはいなかった。ジョグジャカルタ市内の工房が家事労働力を探していると聞いて、スミナムSuminamさんが住み込みで勤めるようになり、工房で作業をするうちに技能を修得し、その後ジャラアンの自宅で行うようになったという(2006年10月4日インタビュー)。

この共有土台は近隣コミュニティの女性に割り当てられ、その使用は貨幣収入をもたらし、技術と知識という土台も再生される。労働者は既婚のロウ置き労働者が家計以外の用途に収入を使うことを強く批判する。ロウ置きは世帯代表者である女性が共同性の維持に使用するため

(42) 日本の伝統工芸品産業において弟子の技能訓練は居住を共にする中で行われることが珍しくない(同上、pp.50-56)。レイヴ&ウェンガーは教育制度による学習とこうした学習を対比し、職人の熟練技能は共同体への十全的参加の過程の一部であり、熟練技能そのものが目的とはなっていないと指摘する。

レイヴ, J. & ウェンガー, E. 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』佐伯胖(訳) 産業図書、1993、p.109。(Lave, Jean and Wenger, Etienne, *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge University Press, Cambridge, 1991.)

(43) パティックに使用される文様はヒンドゥー・ジャワ文化に基づいており(戸津 2007:p.167)、労働者も経営者も影絵芝居や劇、パティック、印刷物等を通じてそれらの名前と意味、形象に普段から視覚的に接している。1999年創設のインドネシアパティック愛好者の会スカル・ジャガド(Paguyuban Pecinta Batik Indonesia Sekar Jagad)は2005年9月10日の講演会において、バントゥルには「自然を描いた農民パティック」が存在したとの見解を示した。しかし現品が残存せず、確認が難しい。

(44) スミナムさんの年齢を尋ねると「70歳」との答えであったが、老齢で自分の年齢を具体的に知らない者が「70歳」と答えるのは習慣であり、日本軍占領期以前であったこと、当時スミナムさんは幼少で小学校入学程度の年齢であったことなどを考え合わせると、調査時点で実際には90歳程度で、1920年代に工房での住み込み勤務を始め、ジャラアン集落に戻り在宅労働を始めたのは1940年代ごろであろうと推計できる。

の貨幣収入を提供する賃労働として認識されている。近隣コミュニティは一定のライフコースにおけるジェンダー役割を想定し、その遂行を求める。共同領域の共有土台は、共同性を広げる目的で使われる。コミュニティはこの賃労働を支援しつつも収入創出活動が社会的な性質を持つようコントロールしているのである。

#### 4-2-3 生産役割を外部化するコミュニティ

工房経営者や産業関係者は専門職アソシエーションを形成する専門家である。しかし労働者はロウ置き技能を専門職の領域から外し、一般生活技能という共有土台とみなす。伝統工芸品生産においては、熟練工が徒弟制を経て生産者／企業家として独立したり、自律的な生産者であった者が賃労働者へと変化するなど、産業内での地位の異動が見られるが<sup>(45)</sup>、本論文のロウ置き労働者のあいだでは、この移動がほぼ見られない<sup>(46)</sup>。商品の販路や価格について尋ねても想像に基づいた答えが返ってくるだけで、実態を把握していない例ばかりであった。ロウ置きの賃労働は、手描きバティック生産者とは非連続的な職務と見なされているのである。ロウ置き労働者がコミュニティ外の経営者と形成する請負関係は、収入創出という目的限定的な職業アソシエーションであり、このアソシエーションの上位に生活の維持と再生を目的とした近隣コミュニティが存在するのである。

業界内の地位の異動の不在のみならず、請負関係における材料の無料貸出しは、前述の先行

研究には見られない特徴である。道具と無形の技術や知識を使用するためには、布とロウが必要である。人脈を通じた関係と規範の共有が確認でき、信用できるため、経営者はロウと布を貸し出す<sup>(47)</sup>。この貸し出しを受けることで、ロウ置きの職業アソシエーションは、技能訓練を近隣コミュニティのなかで行い、土台の再生と継承を進めているのである。つまり近隣コミュニティは単独ではこの土台を維持・再生できない。ロウ置き技能という共有土台は、外部から借り入れた土台を足すことで成立しており、コミュニティ内で自己完結する土台としては定着させず、専門職アソシエーションからコミュニティを分離させているのである。

## 5. 結び

本論文はインドネシア・ジャワ島中部のジョグジャカルタ特別州バントゥル県パンダッ郡の近隣コミュニティという一般共同生活を志向する集団を事例とし、これが市場生産労働の技能育成や熟練労働の供給に対する役割を自らの共同性の文脈に取り込み、職業に限定されない共同領域の再生を行っていることを明らかにした。この地域は1940年代ごろからロウ置きの技術と知識を外部から取り入れ、コミュニティ成員の自足のための土台として共有するようになった。

近隣コミュニティはコミュニティ外部の工房経営者とのあいだに目的限定的で理念的な職業

(45) たとえばピオリ&セーブル 1993 : p.345; 山田 1993 : p.49. 中谷文美『「女の仕事」のエスノグラフィーバリ島の布・儀礼・ジェンダー』世界思想社、2003 : pp.124-126. に事例が見られる。

(46) 例外的にバントゥル県イモグリ郡で、1980年代半ばに政府は、国際援助戦略としての構造調整下において、手描きバティック生産を輸出産業として位置づけ、バティック生産地のひとつバントゥル県イモグリ郡をバティック生産者が複数存在する工業地域と指定し、小規模企業振興政策の一環として企業家育成プログラムを行った。奇妙なことにこの政策は、賃労働者のほんの一部を企業家へ、そして大半を資本なき生産下請へと変貌させる結果となった。つまり賃労働者であった者が資本のない生産者・経営者へと変化したのである。中谷による研究においても、布帛生産者が資本をもたず生産と商品のコントロールを失い下請へと変化する事例が見られる。

Joseph, Rebecca M. *Diffused Batik Production in Central Java*. UMI, Michigan, 1987, pp.204-229.

中谷、2003。

(47) インドネシアのバリ島の賃織り在宅労働者を調査した中谷は、織り手が仲買人から前借する形で材料を自宅に持ち帰り、織り上げた布の価格から材料費を天引きされて労賃が手元に残るシステムであるという(中谷 2003 : p.125)。ロウ置き労働者の場合は、材料を自らの所有とすることはなく、生産者との地位の連続性をもたない。これらに対して中谷の紋織の織り手は、時には自らが生産者となったり、一部工程だけを請負う賃織りとなるなど、賃労働と生産者が連続している。

アソシエーションを形成し、生産における工房経営者と自分たちの役割を区切っている。この職業アソシエーションが熟練労働者を育成し、請負関係による収入獲得への参入を成員に許可する。また近隣コミュニティが持つ土台は最低限であり、職業アソシエーションに対する信用によって、最も高額な布とロウを工房経営者から貸し出してもらい、近隣コミュニティへと持ち出すことで、はじめて土台の使用と近隣での訓練が可能になっている。

技能も請負関係への参加に拘る規範も、広く産業内に共有されている。しかし職業アソシエーションに先立つ近隣コミュニティは、ロウ置き技能を一般共同生活技能として位置付けることで、パティック生産における専門職の領域から外し、経営生産者の役割との連続性を断っているため、部分的な工程の請負から生産者へと変化することは難しい。

近隣コミュニティによる承認を得て請負関係に参加する者の技能は最低限の基準を満たしており平等であるとの強い共通認識があるため、技能レベルに応じた対価の増大や労働者間の競争は不在である。この作業から得る収入の用途は、近隣コミュニティを構成する世帯の生計維持に使われるべきであると考えられている。つまりロウ置きという市場生産労働は貨幣収入と知識と技術によって近隣コミュニティの土台を再生しているのである。

しかし近隣コミュニティは万能ではない。ライフステージごとのジェンダー役割や共同領域の保持を優先しており、想定された役割に合致しない者が見受けられた。近隣コミュニティによる支援ゆえに生活が成り立つとはいえ、コミュニティへの参加が限られており、かつロウ置きによる収入の増加はのぞめないケースである。一般生活技能として近隣コミュニティ成員の一部がもつロウ置き技能と、産業において生産者自らの技能の連続線上にある熟練専門技能としてのロウ置き技能という矛盾のあいだで、労働者たちは揺れ動いているのである。

## 謝辞

インドネシア現地での調査に協力して下さったスカルジャガドならびに多くの工房経営者の方々とロウ置き労働者の方々に深く感謝したい。また調査許可を得たインドネシア科学院 (LIPI) に対し謝意を表す。なおこの調査は日本財団APIフェロシップからの2005-6年度(第5次)調査研究助成、執筆は2009年度富士ゼロックス小林説太郎記念基金からの博士論文執筆助成を得て行った。併せて謝意を表すものである。